

MEMBERS
 Aya KUBOTA (Prof.)
 Takefumi KUROSE (Asst.Prof.)
 Akinobu MASUMURA (M2)
 Misa LEE (M2)
 Yoshino OTA (M1)
 Sakura KAWATA (M1)
 Takeshi KUROMOTO (M1)
 Shujiro IMAEDA (M1)

小高プロジェクトの舞台

自然・文化の町小高

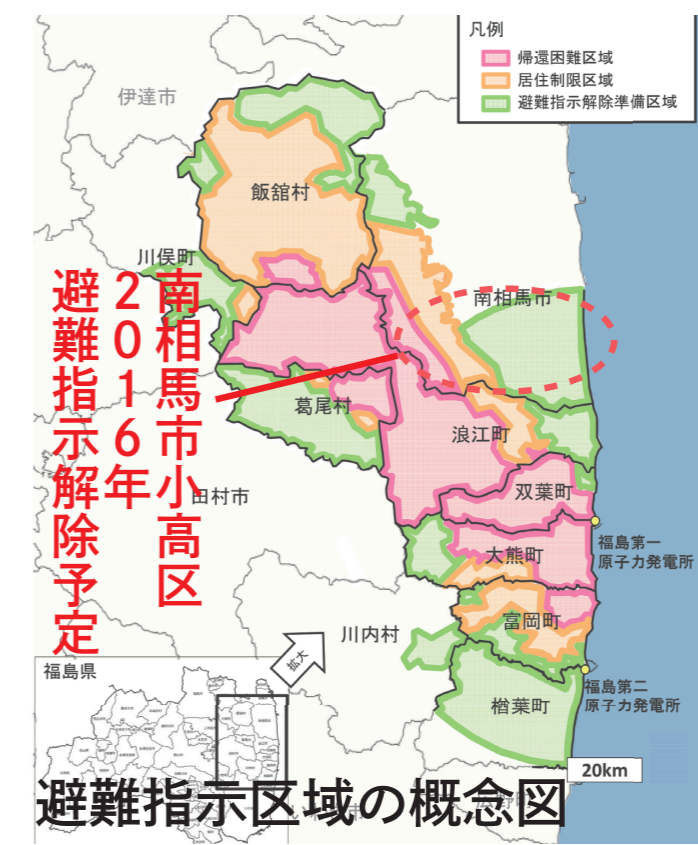
南相馬市小高区は、小高城（浮舟城）を擁する歴史の町で、勇壮な相馬野馬追は地域の誇りである。生活拠点のまちうちと、豊かな自然や文化を持つ多様な集落からなる。



住民の誇り、相馬野馬追

課題山積の、原発複合被災地

東日本大震災では、地震・津波・原発の複合災害被災地となった。原発 20km 圏内の避難指示区域となり、2016 年に解除となる見込みだが、生活再建に向け壁は多い。帰還する人口は 1~3 割、そのほとんどは高齢者という厳しい状況。生業や公共サービスの維持も難しく、従来の地縁組織が大きく揺らいでいる。



避難指示区域の概念図

復興に向かう協働の場

小高の復興という難課題に立ち向かう実践の力が、住民や全国から集まっている。協働の場をつくり、力を合わせて復興の方向性を示すことが、我々小高プロジェクトの使命である。

2015 年度までの活動

2014.12 地域構想ワーキンググループ設立

住民からの発意により、小高区地域協議会の下部組織としてのワーキンググループが始まった。地域構想づくりに向けて議論を重ね、重要な視点として「7つの柱」を立てた。



仮設住宅での議論

- 多様な在りから成る
- これまでの蓄積を活かす
- まちなかが再生拠点 小高区の 主柱となる
- 新たな生業に挑戦する
- 活動が芽生える
- 人と小高の、いろいろな繋がりをもつ
- 災害・放射線リスクに向き合う

2014年度

2015年度

春

夏

秋

冬

春

ワーキンググループ

「ワーキンググループ」として、勉強会やカフェ、町歩きなどの公開イベントを実施



1. 小高あるき



2. 放射線コラボ講演



3. まちカフェ

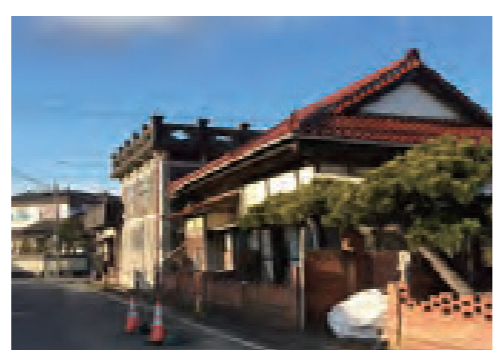


4. 上浦あるき

まちなかプラン

まちなかの空間に手を入れる考え方を構想し、「まちなかプラン」へ。座談会などを開催し、住民の声を集めてで修正。

建造物実測調査



暫定版完成

住民ワークショップ

概要版全戸配布



仮設住宅座談会

パブコメ締切

まちなかプラン完成

地域協議会で承認

市長へ提出



各種の調査

暮らしの課題（交通、福祉、医療、教育など）を含め、各分野ごとにインタビュー等の調査や実践を行う

再開事業所インタビュー

市長と議論

上浦集落調査

教育インタビュー

福祉系行政ヒアリング

農業意見交換会

高校生活動初回 MTG

地域公共交通レクチャー

復興拠点施設連続 WS

行政区長アンケート

地域福祉座談会

上浦住民 WS

高校生フィールドワーク

小高志

今は小高にいても思いを寄せる方へ、今・過去・未来を伝える情報誌



「まちなかプラン」の策定



地域構想の先駆けとして、まちなかを構想。「選ばれるまち」を目指し、空地、街路、敷地の方針、歴史的建造物の利活用など、帰ってきたと思える風景を残し、暮らしを支えるための空間提案を軸とした。

2016 年度の活動予定

協働の拠点・復興デザインセンターを開設

復興の局面で、住民・行政・外部など横のつながりが不足し、大きな力になりきれていない。ここで「協働」する方法を確立し、不安定な状況において小高の豊かな生活を支える拠点を、行政の出資も得て 2016 年 6 月に本格始動予定。

小高復興デザインセンターの構成

- | プロジェクト | 5つの部会 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生 PJ ● 上浦 PJ ● 復興拠点施設運営ワークショップ ● 空き地空き家活用 PJ etc.. | <ul style="list-style-type: none"> ● 行政区部会 ● まちうち部会 ● 生業再生部会 ● ネットワーク部会 ● 災害・放射能汚染リスク部会 |

小高復興会議



◀ デザインセンターが入居する建物を自主改修中

2015 年度も引き続き地域構想の策定を目指し、様々な主体を巻き込みながら、各分野において調査・実践を行った。